

# モデル調査の進め方

内閣府(防災担当) 普及啓発・連携担当  
2017年10月19日

第三回 ジェンダーと防災に関する有識者懇談会

# モデル調査の目的と手順

---

## ■ 目的

ジェンダー不平等が解消されることにより、地域の防災力にどのような影響があるか検証するため、「ジェンダー平等に対する意識が高い」と考えられる地域を選定し、それらの地域におけるジェンダー平等の状況と、地域防災力の関係について、データ収集や事例収集等を行う。

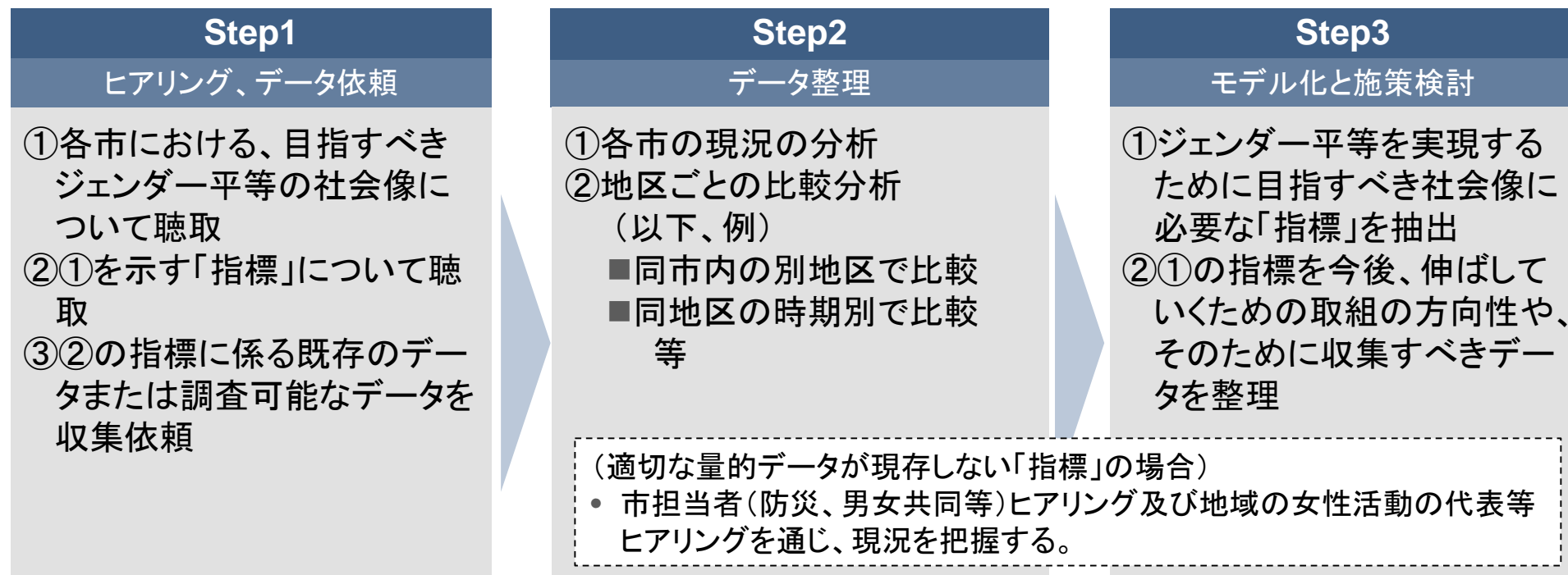
## ■ 主な手順

- 「ジェンダー平等に対する意識が高い」モデル市（3事例程度）に、ジェンダー平等を実現することにより目指すべき社会像を聴取する。
- その上で、その実態を示す「指標」を検討。資料1に示す指標を参考に、当該市独自の「指標」がないか、検討する。
- それらの「指標」をあらわすデータがあれば、提供を依頼する。データがない場合は、集め方を検討する。
- これらのデータを分析し（例：モデル市内の別地区間あるいは経年比較）、地域の防災力との関係を定量的・定性的に検証する。
- データのないものについては、事実関係を集約することにより、定性的な評価を行う。

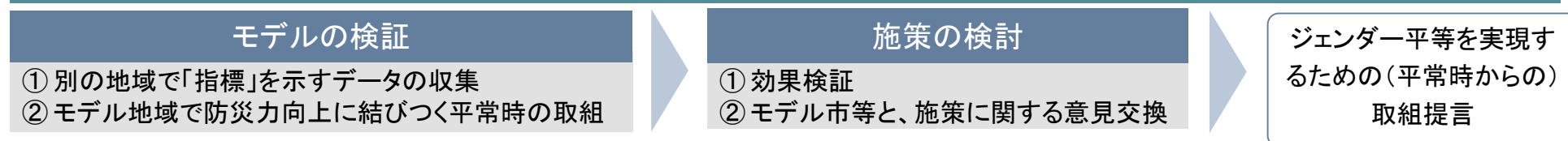
# モデル調査の調査ステップ

## Phase1

モデル地域の実態把握及びジェンダー平等モデルの構築



## (次年度以降)Phase2 : ジェンダー平等の防災を実現するための提言に向けた整理



# モデル地区の候補

## ① 仙台市：被災を教訓とした男女平等の防災の取組

- ✓ 東日本大震災後、避難所での保育所の復旧や、女性NPO団体による生活支援（洗濯サービス等）など教訓を得た。
- ✓ 「防災・まちづくり女性人材育成プログラム」を実施、女性防災人材の育成の取組の実施。

## ② 四日市市：内閣府のモデル事業や市民大学を通じた「男女平等の防災まちづくり」を推進

- ✓ 平成25年度から防災・減災女性セミナーを開催。防災活動に意見を述べるができる女性の人材育成を推進。
- ✓ 避難所運営マニュアルのマニュアルを全市域で作成している。その中で、男女共同参画の視点を取り入れるよう改訂または、追記等を推進。
- ✓ 四日市市自治会連合会、四日市市地区防災組織連絡協議会、四日市市（男女共同参画課及び危機管理室）が協働してセミナーを開催するなど連携体制が豊か。

## ③ 掛川市：防災先進県である静岡県における具体的取組

- ✓ 女性が参画する防災の取組が複数地区で進捗
- ✓ 静岡県は「男女共同参画の視点からの防災手引書（本冊・ダイジェスト版）」を作成（平成25年6月、平成27年3月に改訂）しジェンダー平等の防災の取組を推進。
  - ・防災における男女共同参画を推進することにより地域防災力を高める
  - ・地域での男女共同参画の浸透を図る

表 掛川市の各地区の防災分野におけるジェンダー視点の取組

南郷地区女性自主防災会	構江区自主防災会	大淵地区自主防災会
女性自主防災会で「防災倉庫」を設置。女性目線で必要と思われる災害時の必需品備蓄（ミルクや哺乳瓶、哺乳瓶の消毒液、女性用品、子ども用おむつ、大人用おむつ等。）	炊き出しを男性、消火活動に女性を参画など性別役割分担を再考した防災訓練	避難所運営マニュアルの見直しで地区の人々の避難生活を考える住民ワークショップを実施し以下の事項を反映 <ul style="list-style-type: none"><li>・スペース活用や物資管理での女性のニーズの配慮</li><li>・各班の班長は2人体制（男女1人ずつ）</li><li>・居住組の代表は3人、うち女性を1人配置</li><li>・巡回（安全の確保）男女2人ずつで担当</li></ul>